1

特集 敏感肌を診る

大学病院での敏感肌診断・治療と化粧指導：男性医師として

伊藤泰介
浜松医科大学 皮膚科学 病院教授・准教授

敏感肌は化粧品や洗浄剤などさまざまな生活用品，紫外線や気温，湿度など環境要因によって引き起こされたり悪化したりする．またアトピー性皮膚炎や酒さをはじめさまざまな皮膚疾患が基礎にあることも少なくない．大学病院には難治な症状を訴えるケースが多く患者は神経質になっていることが多い．まずは基礎疾患の有無を診断し，スティンギングテスト，パッチテストなど必要に応じて検査を実施する．男性医師にも適切な化粧品やクレンジング剤などの洗浄剤のアドバイス，スキンケア指導が求められる．

はじめに

敏感肌は捉えにくい症状であり，アトピー性皮膚炎など乾燥肌を呈する疾患がなくても敏感肌だと申告する患者がいる場合に，どのような肌が敏感肌なのか，どのように診断すべきかを知っておく必要がある．また男性女性と性差を強調する時代ではないが，やはり男性にとって化粧は日常する習慣はほぼない．日焼け止めをするかどうかというレベルである．まれに眉毛が脱毛した男性や薄い男性が，眉墨を使用していることもあるが，皮膚科の男性医師で化粧について得意とする方に出会ったことはない．化粧の1つの目的は乾燥肌を主体とした敏感肌の改善であり，皮膚科外来で患者から化粧の可否や，ファンデーションや化粧水を外用薬と一緒に使用してよいのかなど質問を受けることがある．本稿では大学病院という環境下で男性医師がどのようにこうした問題に対応しているかを考えてみたい．

敏感肌とは

英語表記ではsensitive skinであり，まさにその名のとおり敏感な皮膚感覚が前面に出た皮膚症状である．ひりひりした感覚（tingling），チクチクした感覚（pricking），熱感（heat），火照る感じ（burning），痛み，かゆみなどさまざまな感じがあり，皮膚炎はあったりなかったりである[1]（図1）．化粧品や洗浄剤，日焼け止め，気温変化，湿度低下，風，不安など精神的影響，月経などさまざまな外的，内的な影響に対して前述の感覚を感じることが多い．

図1 敏感肌の臨床症状
頬部や前頸部などに淡い紅斑がみられる．鱗屑はほとんどない．

また敏感肌はアトピー性皮膚炎，酒さ，口囲皮膚炎，脂漏性皮膚炎などでもみられる[2]．感覚的な症状であるため，診断には自己診断（セルフアセスメント）が大事となる．中国からの954名の調査報告では，敏感肌の訴えは女性のほうが多いが，重症度は男性のほうが高く，女性は湿度や日光の刺激で刺激感を感じるが，男性は精神的な影響が強かった[3]．

敏感肌の病態

病態は不明なところが多い．アレルギー的機序や免疫学的機序との関係性は定かではない．現時点では，皮膚バリア機能の低下，角層と表皮内の神経の過敏に由来する考え方が主である[4]．表皮細胞にはtransient receptor potential（TRP）familyが発現しており，疼痛や瘙痒に関与している．角層の菲薄化による水溶性物質の透過性亢進が原因とする報告もある[5]．